

平成30年度第1回図書館協議会

開催日時	平成30年6月21日（木） 午後2時30分～午後4時30分
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席者	<p>会 長 堀田 穰 （京都学園大学人間文化学部）</p> <p>会長代行 谷本 美由貴（阪南市みんなの図書館を考える会）</p> <p>委 員 下林 奈央 （阪南市立飯の峯中学校）</p> <p>委 員 中田 則子 （阪南市立上荘小学校）</p> <p>委 員 日野 郁子 （阪南市読書友の会）</p> <p>委 員 森本 典子 （阪南市子ども文庫連絡会）</p> <p>委 員 宮井 敦子 （阪南市立尾崎幼稚園）</p> <p>委 員 高萩 綾子 （大阪府立中之島図書館）</p> <p>委 員 福井 貴子 （泉鳥取高等学校）</p> <p>委 員 筒井 惇美 （市民公募委員）</p> <p>委 員 大和田 裕一（市民公募委員）</p>
事務局	<p>生涯学習部長 中野 泰宏</p> <p>図書館長 加藤 靖子</p> <p>図書館主幹 森下 喜代子</p> <p>図書館総括主査 木村 久恵</p>
傍聴者	なし

平成30年度第1回阪南市立図書館協議会議事録

事務局
(司会)

配布資料確認
司会進行挨拶

部長

挨拶

館長

図書館職員紹介

議長
(会長)

⇒挨拶⇒議事進行

案件1

平成29年度事業報告について・・・資料1

館長

(資料1の図書館年報統計部分抜粋に基づき説明)

蔵書冊数は、書架スペースがいっぱいということもあり、増減はほとんどない。
除籍資料は、昨年スタートした市民協働事業のリサイクルブック“つながり”に譲渡し、販売している。

雑誌スポンサー制度実施により26タイトルの受入雑誌あり。今年度予算はかなり削減されたが、多くのスポンサーに支えられている状況である。

利用状況については、貸出冊数は434,869冊と前年度より2%減となっているが、貸出者数は117,754人に微増している。利用者1人あたりの貸出冊数が減っていることがわかる。社会教育調査によると児童1人あたりの貸出冊数は約28冊、国民1人あたりだと約5冊なので、少子化の影響があると思われる。

8月の入館者数は前年度より増えている。要因としては、8月に採用2年目教員の社会体験研修があり、彼らが読み聞かせをする「えほんの時間」イベントの広報に力をいれたことで、子ども達がたくさん来館したからかもしれない。

今年度も12人の教員の社会体験研修を受け入れる予定である。

自動車文庫の貸出状況については、ほぼ横ばい。

平成29年2月より始めた予約本受取サービスだが、図書館入口前のサラダホールロッカー、東鳥取及び西鳥取公民館(返却受取あり)で行っている。ロッカー受取は図書館閉館時も利用できるとあって、年間貸出1,297冊となっている。公民館では公民館職員からの受渡しであり、東鳥取公民館は図書館に近いのか、現在は利用者が少ない。西鳥取公民館は駅が近いせいか、のべ108人の利用があった。

自動車文庫の老朽化もあり、代替手段として、拠点を増やして移行していきたい。

団体貸出については、合計が6%減。教育機関、学校図書館への貸出冊数が30%減。学校への学期貸出が昨年度2校のみであった為か、今後も考察していく。

相互貸借について、借入4,192冊、貸出548冊。

予約・リクエストは横ばいだが、スマホや館内OPACからの予約が増えている。

利用支援サービスについては、障がい者だけでなく、高齢者も利用できるということで、昨年ケアマネジャー連絡会に出向いて広報を行った。さらにPRしていこうと考えている。

会長

質問や意見等はあるか。

委員

ふれあい号の「かんてき屋箱作駅駐車場」の貸出冊数が前年比の397.1%の伸びになっているのはなぜか。

館長

平成28年度の数字は閉校した旧下荘小学校跡地だったが利用者が少なく、かんてき屋第2駐車場に場所を移した。利用者は増えたが、秋にかんてき屋がこの駐車

場を閉めることになり、店舗前の駐車場に場所を移したが、自動車文庫が見えない場所になり、利用者が減った。今年4月からは、箱作駅海側に場所を移動して様子を見ている。

委員 小学校の司書に聞いたが、舞小学校での駐車時間が変わり、授業の終了時間の関係で、今まで行っていた子が行けなくなったと聞いた。

事務局 毎年1月に何曜日がいいか希望調査しているが、時間までは希望に添いかねるところがある。

委員 そのあたりを改善できればもっと増えるのではないか。学校から近くの子が来ているのか等の調査はしてるのか。

事務局 基本的に学校を目的に行くのではなく、半径2キロ以上離れたポイントへ行く。学校と地域ステーションを組み合わせ巡回している。

館長 桃の木台は地域の人も多い。児童の利用について、毎年希望調査を行って調整していることはご理解いただきたい。

会長 自動車文庫はいつ頃まで走れるのか。

館長 19年目の車両である。エンジンは大丈夫だが他が老朽化している。1台1,600万円はするので、買い替えは財政上困難。現在は学校に学校図書館専任司書が配置されており、子ども達の読書環境も自動車文庫がなくとも保障されている。そのため廃止の方向も考えている。

委員 それは寄付金とかでは無理なのか。

事務局 維持費や人件費等が確保できなければ困難である。

委員 学校の先生方の意見はどうか。

部長 そもそも自動車文庫は学校が求めているものではなく、地域の人々のステーションである。統計で団体貸出が減っているとあったが、原因の1つに学校の統合で学校数が減り、貸出が減ったと推察される。小学校代表の意見はどうか。

委員 上荘小学校は図書館から近いので自動車文庫は来ない。先日、3年生の社会見学で図書館に来たが、図書館を利用している家庭は少ないと感じた。小さい時は親と来る子もあるが、大きくなってくると本離れする子もあり、なかなか図書館に足を運ばなくなっている。今は学校に専任で司書がおり、興味のある本も取り揃えられている。家庭によって様々だが、もっと読書に向かう家庭学習を提案していかなければと思っている。

委員 中学では自動車文庫の利用は求めていないと思う。桃の木台小学校に来ている時間帯は、飯の峯中学校では授業中なので、利用はできない。

館長 自動車文庫が廃止になっても、学校へ予約・リクエストの本は配送するような形で補えたらと思っている。

案件2 子ども読書活動推進事業進捗状況について・・・資料2、3

館長

第2次阪南市子ども読書活動推進計画は平成25年度より5年間ということで、今年が最終年である。第3次計画策定までのスケジュールは資料2の通りである。秋までに素案を作成し、1月にパブリックコメントを実施予定である。

第3次計画の重点目標としては、「本の楽しさを共有する」として、様々な方法でどんなことができるのか考えていく。

その方策の一つが資料3の「えほんのひろば」である。昨年度は一般向け講座を1回実施。その後、4カ所の放課後子ども教室「わくわく教室」及び子育て総合支援センターで実施した。

今年度も一般向け講座開催時に「えほんのひろば」協力ボランティアを募る。

今年から始まった「はなていまなびばネット」の一講座として実施することで、通常の図書館利用者以外の参加申し込みがあった。

学校教育課の協力を得て、「えほんのひろば」実施モデル校を募集したところ、3校から応募があり、会場等の事情で第1校目は下荘小学校を予定している。まずは教職員に「えほんのひろば」研修を実施後、秋に児童に向けて実施予定である。

新子育て交付金も現在申請中で、これが通れば他の2校でも実施したい。

委員

昨年「えほんのひろば」に2回ボランティアとして、参加した。1回目の桃の木台小学校体育館は少し場所が広すぎた。また、時間が長すぎた。子育て支援センターの方は赤ちゃんに本を読み聞かせるのは難しいのではと思ったが、春休み中だったため中学生達もきており、赤ちゃんをあやしていた。家族連れの参加もあり、いい雰囲気だと感じた。

案件3 図書館基本方針及び平成30年度事業計画について・・・資料4、5

館長

今回、昨年度の図書館年報でも載せている基本方針を改めて協議会で諮ったのは、資料5にあるように「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が平成25年に改正されたためである。基本方針自体はあったものの、公表ができていなかったということもあり、この資料4を案として出している。(案を読み上げる)

委員

これを実施していくうえで、専門職である司書が大事になってくると思う。

1人辞められたのに、増やすとは聞いていないが、司書への負担を考えずに、このような基本理念を進めていけるのか、館長の思いはわかるが、どのようにしていくつもりなのか。

館長

貴重なご意見に感謝する。実際のところ、基本方針はこうやっていきたいという目標であり、できる範囲で作ろうとすると内容が貧しくなってしまう。やるべき事は、方針にしっかり盛り込んでおきたいと思った。

委員

気持ちはわかるが、司書の充実には行政からのバックアップがいる。私はそれが一番大事だと思っている。司書の人数が揃うよう、市民としてもサポートしたい。

館長も専門職で今一生懸命いろんなアイデアを持ってやっているのだから、行政もバックアップをお願いしたい。

部長

行政としては、図書館に限らずいろいろなところで、人件費を出さなければいけない。図書館は議員からも司書の充実等という意見があって、減らされずに済んでいるので、恵まれている。今年度、公民館においては日曜日の夜間開館を止めている。これは、人件費削減によるものである。高齢化が進んでくるなか、扶助費、い

わゆる福祉に要する費用が膨大になってきている。学校においても障害者差別解消法で合理的配慮が必要であり、介助員や学習支援員という扶助的な費用が増えてきている。来年度予算においては、非常勤職員を減らしてでも正職司書を採用できればという話を館長としている。正職員の司書を取っていかないと、市立図書館としての存続ができない。だが、行政職に図書館を知ってもらうとともに、司書も行政について知っておくべきである。そういう事を考えて人材任用していかねばならない。

委員 Kさんは司書資格は持っていないのか。図書館は司書資格をもっている人が配置されるものだと思っていた。

館長 行政職で図書館に配置された職員でも、3年目で司書資格をとっている者もいる。また、大阪府立図書館等の研修は、司書資格はなくても図書館職員という立場で受けることができる。先日、Kも障がい者サービス研修を受けたので、今後もスキルアップに努めていく。

委員 本に関する知識を身に付けるのは、時間がかかると思ったので。

会長 わからない事はきいていただきたい。図書館もあまり硬直化してもよくない。例えば運営費用でも、雑誌スポンサーやリサイクル“つながり”等の市民の力を図書館の自主財源として考えていかないといけない時代になってきている。

必ずしも行政100%である必要はない。アメリカでも財源の半分は民間という制度になっている。

基本方針の4の「市民との協働」で、リサイクルブック“つながり”などは将来的に条例化するのもよいかもしれない。

委員 リサイクルブック“つながり”の課題はだんだん増えていく。どの程度図書館が関わるかという部分が難しい。今は事務局を図書館がしてくれているが、すべて運営委員会に任せたらしんどい。活動は楽しいが大変である。

会長 市議員の意見にあったように、障がい者の喫茶店もできたらいい。バランス感覚は必要だが、ある程度運営が柔軟だとやりやすい。

委員 まだ“つながり”は、かたまるところまでいっていない。

委員 基本方針は1から4まであるが、どれが一番優先になるのか。

館長 大事なものから順番にしたつもりだが、他の意見があればお聞きしたい。

委員 基本方針1の2、高齢者、障がい者への配慮だが、自動車文庫のステーションの場所を考慮していただきたい。増減は無いようだが、地域によっては高齢化率の高いところや地形も関与すると思うが、私の自治会の地域は傾斜があり、自動車文庫に借りには行けても、帰れないところもある。

会長 他に意見はあるか。

委員 今の子ども達の様子を聞くと、ネットに入り込んでしまっていて、話をしても何を言っているのかわからない。何か対処法があるのか。

- 部長 ネット依存等もあり、保護者への啓発が必要。図書館では学校との連携になるだろう。学校では、子ども・保護者に対してスマホについての講習も行っている。
今は保護者への指導も必要である。スマホから本へというのも「えほんのひろば」の目的でもある。子ども達がスマホに出会う前に、自分のお気に入りの1冊を見つけ出させることが大事になってくると思う。
- 委員 資料にあるのは、年度ごとの目標か。長期計画か。
- 館長 基本方針に基づく、単年度の目標である。
- 委員 大阪府立図書館は3年間かけて目標値をきめ、毎年振り返りをしている。複数の目標の中に重点目標を定めている。段階評価をつけているが、毎年達成すると、どんどん自分で次の目標を上げてしまい、最終的に自分の首をしめている感じなので、評価疲れにならない目標設定にすべきだと思う。
現在実施中の事業に当てはめてみるのも良い。リサイクルブック“つながり”に関しては、今後いろいろな問題も出てくると思う。目標値設定するときには数値だけでなく、文章で評価する等、何を評価の値にするのかは悩ましいものがある。
- 館長 他市の事例を見て5カ年計画も検討したが、生涯学習推進計画や子ども読書活動推進計画など、様々な推進計画がすでにあり、すぐに5年間で過ぎてしまいそうなので、芯となる基本方針を作り、単年度の目標を立てて、実現していこうと思っている。
- 委員 その方がいいと思う。上位計画と共有できる目標を入れられれば良いと思う。直営の図書館の方がきちんと目標をたててやっているところが多く感じる。
- 部長 初めての評価になると思うので、単年度で見直していくことも必要であろう。アドバイスいただいたことも踏まえて進めていきたい。
- 館長 資料4にある平成30年度サービス目標及び事業計画（案）について説明。
- 会長 質問等ないか。
- 委員 まちカフェ等、人の集まるところに本を持っていくというサービスだが、講座に参加した時にテーマにあった資料がいろいろあれば、帰りにちょっと寄ってみようという人もでてくるのではないか。私が昨年講座を受けた先生がたまたま阪南市の方だったが、郷土について講座をしたのに、紹介した本が市立図書館にあるかどうかはわからないといったので、びっくりした。
講座の主催者からの依頼がない場合も、図書館からおしかけてでも資料を並べてみたら、図書館に足を向ける人も増えるのではないか。他団体との連携ということで考えてみてほしい。
「えほんのひろば」であるが、専任司書がいる小学校では、かなり学校図書館が利用されていると思うが、それでもやる意義があるのか。
- 委員 上荘小学校も応募したが、空き教室がなく、今回は実施できなかった。
今の子どもたちはスマホ等で、手軽に情報が得られ、本の必要性を感じていないと思う。スマホやゲームが悪いわけではないが、だからこそ子ども達が興味を持てるような本を提供したい。「えほんのひろば」にある本は、学校図書館には無い様な本なので、子ども達は喜ぶと思う。そこから本に興味を持ち、話の長い本にも手

を出すきっかけになる。「えほんのひろば」はいいと思う。大人でも興味がわき、楽しめる。次の機会には是非自校で実施したい。

委員 中学校ではどうか。写真絵本が多いのが特徴のようだが、「えほんのひろば」は読書のきっかけになるのか。

委員 予算が限られているので、学校図書館の本は写真集よりは物語の本が優先されるが、それでも写真絵本や料理本等を図書館入口に展示することで、手に取られている。

部長 「えほんのひろば」は、まず先生が体験してほしい。1回体験すると、きっと先生も引き込まれると思う。その経験を子どもたちに伝えていけたらと思う。

館長 では、基本方針はこの案で策定、公表でよろしいか。

会長 異議はない。

案件4 その他

館長 昨年「認知症にやさしい図書館ガイドライン」が公表されたのを機に、世界アルツハイマー月間である9月から、認知症にやさしい図書館プロジェクトを展開予定である。社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護保険課、地域の方と連携して行う。認知症に関する図書、資料展示や“つながり”の場所を利用して、認知症カフェを試行できないか等、話し合っている段階である。認知症サポーター養成講座も図書館主催で3回開催する。

事務局 泉鳥取高校では認知症サポーター養成講座を学校で取り入れているのか。

委員 家庭科の授業で取り入れているかもしれない。

館長 認知症に関する様々な情報を取りそろえ、どこに相談にいったらいいのかわかるようにしたい。9月は入口の特集コーナーで開始し、10月以降はスペースを小さくして常設する。すでに多くの図書館が取組を始めている。

会長 図書館での実施は、いろいろな人が参加しやすいところがよい。
発言の無かった方、何かご意見はあるか。

委員 3月で読書友の会は解散した。だが、何組か読書グループは残って活動するので協力願いたい。

委員 尾崎幼稚園だが、図書館からは近く、見学にも行かせてもらっているが、保護者に対する働きかけが大事だと感じた。

会長 他になければこれで本日の協議会は終了する。

事務局 次回は平成30年11月8日(木)を予定している。